

▼校庭で舞い上がる白瀬凧



▼たこ作りの様子



羽ばたけ白瀬凧！

～連凧づくり：金浦小学校～

2月19日、金浦小学校の4年生が、100枚の凧を連ねる「連凧」を作り、凧揚げをしました。白瀬中尉が南極探検に出発して、来年100周年を迎えることから、この連凧を南極の空で揚げてもらおうと、佐々木健造さん（日本凧の会会員：由利本荘市）が計画したものです。

南極探検旗が100枚連なった凧の足には、児童たちが将来への希望などを記しました。「白瀬凧」と命名され、この日金浦の空で揚がった凧が、いつの日か南極の空で舞い上がることを願いながら、児童たちは白瀬中尉の偉業を改めて感じていました。

持ち上がらんっ

～初午行事 石持ち占い：横岡地区～

2月5日、「石持ち占い」が横岡地区内にある稲荷神社（薬師神社）で行われました。初午の前日に行われるこの占いは、石を片手で持ち上げ作柄を占い、豊作を祈願するとされています。

始めに子どもたちにより獅子舞が行われた後、ことしの講中8人が、代わる代わるに石を持ち上げました。4kgほどの石ですが、成人男性の片手でようやく持てるほどの大きさと、長年使われてつるつるな表面のため、皆、持ち上げるのに四苦八苦。杯を傾けながら、石持ちというり端での談義で、夜は更けていきました。



「つかめるかどうか問題だ」

児童たちへ感謝の言葉

～蕪風苑へ車いす寄贈：象潟小学校～

2月18日、象潟小学校から特別養護老人ホーム蕪風苑に車いすが寄贈されました。同校福祉委員会の取り組みにより、全校児童がアルミ缶を収集し、売却金で車いすを購入したものです。1台購入まで4年かかったとのことで、施設利用者からは訪れた福祉委員4人に、感謝の言葉がおくられ、記念撮影と万歳三唱がされました。



平成20年度

秋田県青年・女性漁業者交流大会

【最優秀賞】秋田県漁業協同組合  
象潟支所 女性部



おいしくて、あったまって、つい笑顔



野外で家族団らん

2月15日「第6回あつあつあつ！おらほの鍋自慢」が道の駅象潟「ねむの丘」特設会場で開催されました。地元食材をふんだんに使った自慢の鍋を味わおうと、大勢の家族連れなどで賑わいました。来場者数約5,500人、14店舗の出店はいずれも過去最多となりました。

テントがズラリと並んだ会場は、大鍋からの食欲をそそる香りと湯気、売り子の掛け声で熱気に溢れていました。夫婦町の宮城県松島町のかき鍋には、開始から長い行列。ラーメン鍋やさけのチャンチャン焼き風鍋など変わり種の新鍋もあり、2杯食べられるチケットを手に、皆どれにしようか思案顔でした。

冷たい風が吹く天候でしたが、「寒いからこそ、鍋料理が最高だ」と皆、あつあつあつの鍋を堪能していました。

～第6回あつあつあつ！おらほの鍋自慢～

寒いからこそ鍋料理



お口をあーん



「ウチのが一番うまいよー」

結婚や出産を通して変わったもの

～すてきな生き方講座～



講演：ふくよかな生き方

2月8日、金浦勤労青少年ホームを会場に、にかほ市金浦地域婦人会主催による「すてきな生き方講座」が行われました。この講座では、市民による男女共同参画対話劇が上演され、方言のセリフが観客たちの笑いを誘っていました。講演では、秋田県出身で劇団わらび座の椿千代氏を迎え、自身が演じたヒロイン役での苦労話や結婚や出産を経験して、いままで役者としてみえていなかったことなどが語られました。講演終了後、にかほ市ハーモニカ愛好会によるハーモニカ演奏も行われ、観客は演奏にあわせ手拍子をしながら楽しんでいました。